

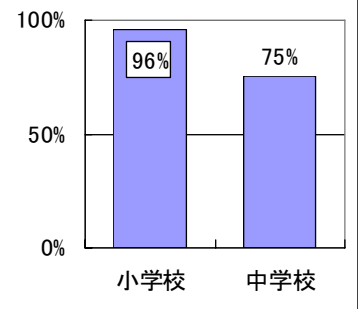
取組 2 6 社会を学ぶ体験活動・ボランティア活動

○ 現状

近年、地域社会の人間関係の希薄化や生活様式の変化に伴い、子どもが多様な年代の人々と接し、社会を学ぶ機会が少なくなっています。

体験活動として、小学校では自然の中での集団宿泊活動等を、中学校では職場体験活動等を推進しています。また、小中学校の総合的な学習の時間を中心に、児童生徒が地域の福祉施設を訪問しボランティア体験や交流活動を行ったり、障害者等を講師とする授業や講演会などを通して、すべての人が共に生きる社会を学んでいます。

総合的な学習の時間で「福祉」を課題として取り上げている学校



集団宿泊活動

児童が自然や文化に親しむとともに、数日間、学校を離れて宿泊を伴った生活をする中で、自律性や協調性、社会性等をはぐくみます。



職場体験活動

生徒が直接働く人と接し、知識や技術に触れることで、学ぶことや働くことの意義を理解し、主体的に進路を選択する意欲等を培います。

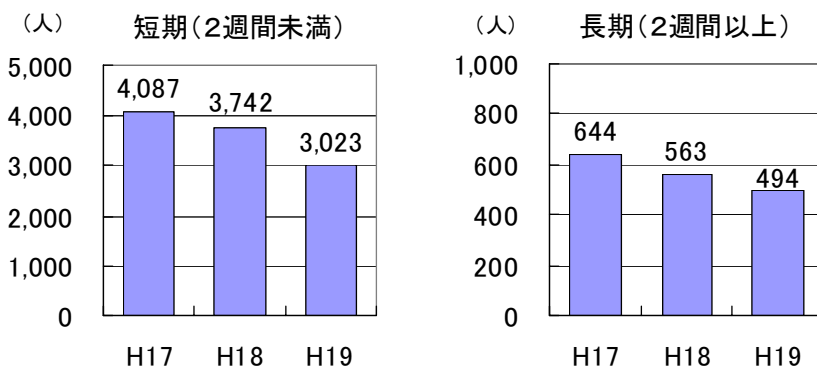


老人ホームの清掃ボランティア
(高崎市立片岡中学校 JRC 委員会)

県立高校では、学校から離れた産業現場等で就業体験（インターンシップ）を実施し、実際的な知識・技術にふれることを通して、望ましい職業観や勤労観を育成しています。

また、福祉施設や放課後児童クラブ、図書館等の公共施設などでボランティア活動を行っており、活動の成果を単位認定（35時間で1単位）しています。平成19年度は、県立高校2校で、28名が単位を取得しています。

就業体験(インターンシップ)参加生徒数の推移



就業体験 (インターンシップ)

県立青少年教育施設において、子どもたちに自然体験を中心とした社会体験、環境学習体験、親子での体験活動の機会を提供しています。



県立青少年教育施設での自然体験

○ 課題

- ・子どもたちが、日常生活の中で体験活動を行う機会が減少していること
- ・就業体験（インターンシップ）やボランティア活動に参加する児童生徒を増やすこと

○ 取組の方向

- ・小学生の自律性や協調性、社会性等の育成を促すため、集団宿泊活動を推進します。
- ・中学生が学ぶことや働くことの意義を理解し、主体的に進路を選択できるように、職場体験活動を推進します。
- ・高校生が産業や雇用等の社会の現状を理解できるように、就業体験（インターンシップ）を推進します。
- ・高校生がボランティア活動に参加しやすい環境を整備します。
- ・青少年教育施設において、自然体験や社会体験等の機会を提供します。

○ 主な事業の概要

事業の概要	担当部署
<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな体験活動推進 農山漁村におけるふるさと生活体験等をモデル校で実施し、その成果の共有化と普及を図ります。 	義務教育課
<ul style="list-style-type: none"> ・ ぐんまトライワーク推進（高校生長期インターンシップ） 2週間程度の長期就業体験を実施し、生徒の専門分野に対する実践的な知識 ・技術の体得や、望ましい職業観・勤労観を育成します。 	高校教育課
<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年自然体験・自立支援 自然体験を中心に、社会体験、親子での体験活動等を行います。また、不登校等の悩みを抱える青少年を対象に、様々な体験活動の場を提供します。 	生涯学習課

○ 達成目標

目標の概要	基準年度の状況 (H20)	目標年度の状況 (H25)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での宿泊体験活動の実施校の割合（4日以上） 	5%	30%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校での職場体験活動の実施校の割合（5日間） 	33%	50%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校における長期インターンシップの実施校の割合 	91%	100%